

美術科学習指導案

日	時：平成26年1月31日（金）第5校時（13時15分～14時05分）
学	年：本校 中学部1年 重複学級
授業場所	：本校 中学部4組教室

1. 単元（題材）名

「シュールリアリズムの芸術に触れ、鑑賞文を書こう」

2. 単元（題材）設定の理由

（1）児童生徒について

生徒は、自分の思いを言葉や文章で表現することが苦手であるが、周りをよく見て自分なりの意見をしっかり持っている。個別の授業で学習していることが多いが、副教科では1組と交流、道徳や自立など3学年合同で行う教科は一緒に活動をしている。入学してすぐのころは、同じ教室に入ることに抵抗があり、隣の教室からリモートカメラを使って授業を参観することから始めたが、現在では同じ教室で同じ活動をすることに抵抗がなくなりつつある。

生徒は、シュールリアリズムの洋画に強く興味を持っており、多くの作品を模写している。丁寧に時間をかけて、彩色をしている。絵を描くことがとても好きで、自信も持っている。また、興味のある絵については、いろいろな思いを文章化することもできる。

（2）教材について

『パン籠』1926年制作。黒い背景のなかに、台にのったパン籠が緻密に写実的に描かれている作品である。手前から光を受けて、黒い背景の中に浮かび上がるように描かれている。ダリは、1945年にも同名の作品を発表している。題材についてはダリの作品の中から生徒自身が最も好きな作品を選んだ。生徒は今までも、ダリの作品を2作品自分で選び、模写をしている。

（3）指導について

生徒にとってこの作品はとても馴染み深く、目にする機会も多い。鑑賞文を書くにあたり、6つの観点（印象・構成・色彩・音・想像したこと・作者の心情や意図）に沿って、詳細に作品を分析し、鑑賞する。生徒は自信のないことについては、なかなか自分の意見を言ったり書いたりすることが難しいが、自信のある美術、絵画について本当に多くの思いを持っている。今回は『自分の好きな作品』を選ぶことによって、意見や感想を積極的に述べやすくした。

3. 単元（題材）の目標

- ・サルバドール・ダリの作品を鑑賞し、シュールリアリズムの芸術に触れる。
- ・作品の魅力や良さを味わい、その魅力を文章で伝える。

4. 単元の指導計画

指導計画（全8時間）

指導計画（全8時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第1時	西洋美術史，シュールリアリズムについて知る。	IWB
第2時	鑑賞する作品を探す。	TPC
第3時	作品と作者について調べる。	TPC
第4時	発表の仕方を知る。調べたことを発表する。	IWB, TPC
第5時	観点を決めて，作品を鑑賞する。（本時）	IWB, TPC
第6時	文章の構成を考え，観点を整理する。	TPC
第7時	鑑賞文を書く。	TPC
第8時	鑑賞文の続きを書く。鑑賞文を発表する。	TPC

5. 本時の目標

- ・作品の美しさ，面白さ，絵画の技法を感じ取り，考えを深める。
- ・作品から感じ取れることや読みとれることを自分の言葉で表現する。

6. 本時の展開

	学習内容	学習活動	児童生徒支援内容・留意点
導入	<p>①鑑賞文を書くための流れを確認する。</p> <p>②本時の目標を確認する。</p>	<p>・鑑賞文を書くための流れを確認する。</p> <p>・本時の目標を確認する。</p>	<p>・本時も含めて、どのような流れで鑑賞文を書くか説明し、見通しを持たせる。</p> <p>・ホワイトボードに提示する。『作品の美しさ・面白さ・絵の技法を感じ取り、観点別に文章で表現しよう。』</p>
展開	<p>③観点を確認する。</p> <p>④作品を鑑賞しながら、観点に沿って「パン籠」の絵から感じ取れることや読みとれることをコラボノートに書きこむ。</p> <p>⑤書いたことを指導者と確認する。</p>	<p>・「印象」「色彩」「構成」「音」「想像したこと」「作者の心情や意図」について、一項目ずつ確認する。</p> <p>・指導者も同じ作品について観点に沿って観賞し、意見を比べる。</p>	<p>・6つの観点を読んで、何について書けばよいのか説明する。</p> <p>・時間を決めて完成させられるように、自分で時間配分をさせる。完成しなければ、できたところまでを確認後、また時間をとる。</p> <p>・他の人（指導者）の視点についても知ることで考えを深める。</p>
まとめ	<p>⑥観点を元にして、文章を書くための流れを知る。</p>	<p>・観点を元にして、文章を書くための流れを知る。</p>	<p>・どのように文章を組み立てていくかを具体的に提示して説明する。</p>

7. 本時の評価（評価の観点・観点別の評価を含む）

- ・作品の美しさ、面白さ、絵画の技法を感じ取り、考えを深めることができた。
- ・作品から感じ取れることや読みとれることを自分の言葉で表現することができた。